

S G 配合顆粒

【この薬は？】

販売名	S G 配合顆粒 S G Combination Granules	
一般名	イソプロピルアンチピリン Isopropylantipyrine アセトアミノフェン Acetaminophen アリルイソプロピルアセチル尿素 Allylisopropylacetylurea 無水カフェイン Anhydrous caffeine	
含有量 (1 g 中)	イソプロピルアンチピリン	150mg
	アセトアミノフェン	250mg
	アリルイソプロピルアセチル尿素	60mg
	無水カフェイン	50mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、解熱鎮痛剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、熱を下げる作用や、痛みの感受性を低下させて、痛みをやわらげます。

・次の目的で処方されます。

感冒の解熱、耳痛、咽喉痛、月経痛、頭痛、歯痛、症候性神経痛、外傷痛

・この薬は、指示どおりに飲むことが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- この薬に含まれるアセトアミノフェンにより、肝臓に重篤な障害（体がだるい、白目が黄色くなる、吐き気、食欲不振、皮膚が黄色くなるなど）があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合はすぐに医師に連絡してください。
- アセトアミノフェンを含む他の薬（市販のかぜ薬などにも含まれていることがあります。）を使用している場合は、医師に伝えてください。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・過去にSG配合顆粒に含まれる成分、ピラズロン系薬剤（スルピリンなど）、アミノフェノール系薬剤（アセトアミノフェンなど）で過敏症のあった人
 - ・アスピリン喘息のある人、または過去にアスピリン喘息になったことがある人
 - ・肝臓に重篤な障害のある人
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。
 - ・血液障害（貧血、白血球減少症など）のある人
 - ・本人または両親、兄弟に他の薬物に対するアレルギー、じんま疹、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、食物アレルギーなどのある人
 - ・毎日多量に飲酒している人
 - ・絶食・栄養状態が悪い・摂取障害などによるグルタチオン欠乏の人、脱水症状のある人
 - ・腎臓に障害がある人
 - ・肝臓に障害がある人
 - ・妊婦または妊娠している可能性がある人
 - ・授乳中の人

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

〔通常〕

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

一回量	1 g（1包）
飲む回数	1日3～4回 次の使用まで少なくとも4時間以上空けてください。

〔頓用〕

頓用の場合、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

一回量	1～2 g（1～2包）
飲む回数	次の使用まで少なくとも4時間以上空けてください。 1日最高4 g（4包）までとしてください。

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。気がついた時に、1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

アセトアミノフェンにより、肝臓に重篤な障害（体がだるい、白目が黄色くなる、吐き気、食欲不振、皮膚が黄色くなるなど）があらわれるおそれがありますので、ただちに受診してください。過量使用の治療薬として、アセチルシステインがあります。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬による治療は、症状を軽減するために行われるものです。
- ・高熱のある高齢の人、または消耗性疾患の人は、体温の下がりすぎや、虚脱（力が抜ける、意識の低下など）、手足が冷たくなるなどの症状があらわれることがあるので、この薬を使った後の状態に十分注意してください。
- ・眠くなったり、注意力・集中力・反射運動能力などが落ちたりすることがあるので、自動車の運転や機械の操作など機敏な動作を必要とする仕事はなるべく避けてください。
- ・アセトアミノフェンを含む他の薬（市販のかぜ薬などにも含まれていることがあります。）を使用している場合は、医師に伝えてください。
- ・アルコールを含む飲食物はこの薬に影響しますので、避けてください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。また、長期間飲まないでください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
溶血性貧血 ようけつせいひんけつ	体がだるい、めまい、息切れ、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる
中毒性表皮壊死融解症 (TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゆう かいしょう (テン)	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形

重大な副作用	主な自覚症状
(スティーブンス-ジョンソン症候群) ひふねんまくがんしょうこうぐん	の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
急性汎発性発疹性膿疱症 きゅうせいはんぱつせいほっしんせいのうほうしょう	発熱、皮膚が広い範囲で赤くなる、ところどころに小さな膿をともなう発疹が出る
薬剤性過敏症症候群 やくざいせいかびんしょうしょうこうぐん	皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、発熱、体がだるい、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、息苦しい、動悸（どうき）
喘息発作 ぜんそくほっさ	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと音がする、息苦しい
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	発熱、咳、息苦しい、息切れ
間質性腎炎 かんしつせいじんえん	関節の痛み、発熱、発疹、吐き気、嘔吐（おうと）、下痢、腹痛、むくみ、尿量が減る
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	体がだるい、むくみ、尿量が減る
劇症肝炎 げきしょうかんえん	急な意識の低下、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	体がだるい、冷汗が出る、体がかゆくなる、急激に体重が増える、力が入らない、ふらつき、疲れやすい、発熱、むくみ、出血が止まりにくい、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ
頭部	めまい、意識の消失、急な意識の低下
顔面	鼻血、顔面蒼白
眼	白目が黄色くなる、目の充血やただれ
口や喉	歯ぐきの出血、吐き気、嘔吐、唇や口内のただれ、咳、喉のかゆみ、血を吐く
胸部	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと音がする、息

部位	自覚症状
	苦しい、息切れ、動悸
腹部	腹痛、お腹が張る、食欲不振
手・足	手足が冷たくなる、関節の痛み
皮膚	皮膚が黄色くなる、あおあざができる、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、発疹、全身のかゆみ、皮膚が広い範囲で赤くなる、ところどころに小さな膿をともしなう発疹が出る、じんま疹、全身性の発疹
尿	尿量が減る、尿の色が濃くなる
便	下痢、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）

【この薬の形は？】

形状	<p>顆粒剤</p> 
SP シート	
色	白色

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	イソプロピルアンチピリン，アセトアミノフェン，アリルイソプロピルアセチル尿素，無水カフェイン
添加剤	乳糖水和物、ヒドロキシプロピルセルロース、メチルセルロース、含水二酸化ケイ素

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：シオノギファーマ株式会社

販売会社：塩野義製薬株式会社(<http://www.shionogi.co.jp/>)

医薬情報センター

電話：0120-501-074

受付時間：9時～17時（土、日、祝日を除く）